

別冊 2

令和 3 年度

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価結果の見方

葛飾区行政評価委員会の評価結果は、「実績状況」と「今後の方向性」に係る提言から構成されています。

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名		所管課	
-----------	--	-----	--

項目		提言内容
実績状況	成果	評価表に記載されている過去3年間の指標及びコスト状況などの実績状況を踏まえ、総合的に評価し、具体的な内容を提言します。
	コスト	
今後の方向性		実績状況や多角的視点による分析等を踏まえ、事務事業の今後の方向性や改善策について、具体的な内容を提言します。

令和 3 年度

葛飾区行政評価委員会 答申

令和 3 年 8 月

葛飾区行政評価委員会

葛飾区行政評価に関する答申

令和3年7月1日、貴職から、「緑と花のまちづくり事業」「葛飾ブランド創出支援事業」の2事務事業につき、それぞれ意見を求められました。

これまで、慎重に審議を重ねてまいりましたが、このたび、別添のとおり結論を得ましたので、ここに提言として答申いたします。

令和3年8月23日

葛飾区長 青木 克徳 殿

葛飾区行政評価委員会

会 長 大石 雅也
小松原 昭芳
安達 由恵
岡村 明
大畑 廣行
大山 安久
折登 紀昭
香月 文美子
上村 幸一
河村 悠之介
鈴木 三津雄
谷本 綾乃
堀 眞弘
町田 栄生
水寄 僚子
村上 牧夫

答申にあたって

本委員会は、葛飾区が行政評価を本格実施した平成14年度以降、区が実施した施策及び事務事業の成果について区民の視点から評価を行い、今年で20年目を迎えることとなりました。

この間、葛飾区行政評価委員会による評価を継続できましたのも、委員の皆様と事務局が一体となり、「葛飾区がよりよい街になるように」との想いで取り組んできた結果であると考えております。

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりましたが、今年度は、感染症対策を十分に講じた上で、オンラインでの参加を可能とし、また、大学選出委員も参加するといった新たな試みも取り入れてきました。

特に今回は、区が今後更なる発展を期待する重点事業である「緑と花のまちづくり事業」、「葛飾ブランド創出支援事業」の2事務事業に絞り、かつ各分科会を3回実施することで、今まで以上に充実した評価を行いました。

「緑と花のまちづくり事業」では、街並みの景観向上や緑化活動をとおした人との繋がりを広めるために、どのように事業を実施していくか議論を交わしました。議論の中では、民生委員や社会福祉協議会、活動団体との協働や、幼稚園児や小中学生を含む個人による活動が活性化する策を検討してはどうかといった意見がでました。また、「葛飾ブランド創出支援事業」では、販売経路の拡大や町工場の活性化につなげるために、どのように事業を実施していくか議論を交わしました。議論の中では、特に葛飾ブランドの見直しや、認定企業同士の連携を強化するための支援策を検討してはどうかといった意見がでました。

審議にあたっては、事務事業の所管課長からのヒアリングや現場視察を通じて、事務事業を取り巻く現状を十分認識することにより、真に実効性のある評価を行うように努めてまいりました。

また、委員会の運営にあたりましては、議事要旨を公開していくことや本委員会の活動内容の積極的な公開等にも努めてまいりました。

こうした取組が、葛飾区行政評価委員会はもとより、区政に対する区民の関心を高めることになると考えております。

以下、別添のとおり事務事業に対する評価結果をとりまとめました。

貴職におかれましては、この評価結果を区民の声として受け止めていただき、ぜひとも、区民生活のさらなる向上のために役立てていただきたいと願っております。

令和3年8月23日
葛飾区行政評価委員会
会長 大石 雅也

目 次

第一分科会 活動経過	1
第二分科会 活動経過	2
葛飾区行政評価委員会の評価結果（第一分科会）	3
緑と花のまちづくり事業	4
葛飾区行政評価委員会の評価結果（第二分科会）	7
葛飾ブランド創出支援事業	8

令和3年度葛飾区行政評価委員会 活動経過【第一分科会】

対象事務事業: 緑と花のまちづくり事業

回数	日程	内容	場所
全体会 (第1回)	7月1日(木) 午後1時30分～3時30分	○区長より、委嘱 ○制度の概要・評価方法の説明	葛飾区役所新館5階 庁議室
分科会 (第1回)	7月8日(木) 午前10時～正午	○事業ヒアリング ・所管課長による事業説明 ・質疑応答 ・現場視察	男女平等推進センター(ウイ メンズパル)1階 洋室D
分科会 (第2回)	7月21日(水) 午前10時～正午	○事業評価 ・各委員による事業評価 ・現場視察	亀有地区センター ホール
分科会 (第3回)	8月5日(木) 午前10時～正午	○答申内容の確定 ・第2回における各委員の意見を事務局で とりまとめた「葛飾区行政評価委員会による 評価結果(案)」をもとに、答申内容をまと める。	葛飾区役所新館5階 庁議室
全体会 (第2回)	8月23日(月) 午前10時～正午	○答申内容の確認 ○区長への答申	人材育成センター(ウイメン ズパル)4階 AB研修室
全体会 (第3回)	令和4年2月10日(木) 午前10時～正午 (予定)	○所管課長による答申内容を踏まえた取組 状況の報告	人材育成センター(ウイメン ズパル)4階 AB研修室

令和3年度葛飾区行政評価委員会 活動経過【第二分科会】

対象事務事業:葛飾ブランド創出支援事業

回数	日程	内容	場所
全体会 (第1回)	7月1日(木) 午後1時30分～3時30分	○区長より、委嘱 ○制度の概要・評価方法の説明	葛飾区役所新館5階 庁議室
分科会 (第1回)	7月8日(木) 午後3時～5時	○事業ヒアリング ・所管課長による事業説明 ・質疑応答 ・現場視察	高砂地区センター2階 会議室
分科会 (第2回)	7月19日(月) 午後2時～4時	○事業評価 ・各委員による事業評価	葛飾区役所新館7階 706会議室
分科会 (第3回)	8月5日(木) 午後3時～5時	○答申内容の確定 ・第2回における各委員の意見を事務局 でとりまとめた「葛飾区行政評価委員会に よる評価結果(案)」をもとに、答申内容を まとめる。	葛飾区役所新館7階 701会議室
全体会 (第2回)	8月23日(月) 午前10時～正午	○答申内容の確認 ○区長への答申	人材育成センター(ウイメン ズパル)4階 AB研修室
全体会 (第3回)	令和4年2月10日(木) 午前10時～正午 (予定)	○所管課長による答申内容を踏まえた取 組状況の報告	人材育成センター(ウイメン ズパル)4階 AB研修室

葛飾区行政評価委員会の評価結果

(第一分科会)

「緑と花のまちづくり事業」

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	緑と花のまちづくり事業	所管課	環境部 環境課
-----------	-------------	-----	------------

項目	提言内容	
実績状況	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・官民学で協働している点が良い。また、花壇活動だけでなく、福祉的效果を狙うなど事業の目的意識も明確になっている点も良い。 ・この活動は結果として花いっぱいになるだけでなく、高齢者への支援や孤独になりがちな小さい子供を育てている母親への支援、地元企業の活性化にも繋がる点が良い。 ・副次的な効果を客観的に測るための材料が不足、評価しにくい部分がある
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・フラワーメリーゴーランドに発生している事業費が高く、費用対効果が低いように思われるため、抑える工夫が必要なのではないか。 ・全体的に消耗品費が高いため、抑える工夫が必要なのではないか。 ・地域が花いっぱいとなる活動をするために必要な経費は予算に計上すべきである。
改善	<p>【団体活動への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラワーメリーゴーランドの事業費や花苗の費用を削減することで、全体の事業費を増やすことなく、団体を補助する選択肢を増やすことができるのではないかと。 ・長く活動してもらうためにも、肥料や花苗等の支援だけでなく、団体が活動しやすくなる支援も大切ではないか。団体へ何が必要かをヒアリングしてはどうか。 <hr/> <p>【個人活動への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民から考えれば住宅地の中に緑や花がある方が喜ばしいが、現状は、イベント事業が中心になっていると思われる。今後は個人での活動がさらに広がる区民目線の事業を検討すべきではないか。 ・個人活動を推進する上で、歩道にプランターを並べないなど、ルールも作るべきである。 	
今後の方向性	<p>【担い手の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子での花壇活動は親子のふれあいや植物を育てることを知ることに繋がり、教育に良いと考えるため、担い手の対象を幼稚園児や小学生にも広げてはどうか。幼少期から手伝いという形で花壇活動を経験することで、習慣ができ、将来的な若い人の参加にも繋がると考える。 ・海外の取組も参考にし、自宅の花壇活動におけるコンクールなどを実施してはどうか。 ・小学校の花壇活動は子どもにとって、物を大切に育てる感性が養われるなど教育の一環になると思う。今後は、学校単位にコンクールを実施するなど活性化させていくことが大切ではないか。 <hr/> <p>【事業の検討体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会、民生委員、関係課が一堂に会し、事業について検討する機会を設けてはどうか。 <hr/> <p>【フラワーメリーゴーランド】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラワーメリーゴーランドの設置場所は、駅前など、区民の目に付きやすい場所を選び、日々の生活の中で花をより身近に感じられるよう配慮すべきである。 <hr/> <p>【花と緑のはがきコンクール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクールだけでなく、その結果の周知にも力を入れるべきである。例えば、はがきコンクールで応募される「はがき」は小さく、飾ってもインパクトがないため、大きくしてもらいなど工夫し、小中学校や他施設にも貼り出してはどうか。 <hr/> <p>【SDGsとの関連性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの視点を踏まえた事業展開をするべきではないか。 <hr/> <p>【事業の周知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区公式ツイッターなどのSNSを積極的に活用し、周知を図るべきではないか。 	

令和3年度 葛飾区行政評価委員会評価表

事業名	緑と花のまちづくり事業	担当部	環境部
		担当課	環境課

基本情報

施策番号	施策	1302	豊かな自然を守り育てます
事業の目的		区民の自主的な活動により区内に緑と花を一層広めるとともに緑化意識の高揚を図る。	

実施内容	<p>地域で緑と花を育てる活動団体に対する花の苗や種などの緑化材料の補助や、身近な地域の緑花を推進する事業を行うことにより、街並みの景観及び美観を向上させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緑と花のまちづくりを推進する団体に対する支援を行い、区民の自主的な活動により区内に緑と花を一層広める。 2. 区民と区の協働による花いっぱいのまちづくりを推進するため、区、活動団体、事業者等で構成する「かつしか花いっぱいのまちづくり推進協議会」を設置し、運営を行う。 3. 花いっぱいのまちづくりホームページの開設、運営を行う。 4. 緑花生活を推進するため、各種事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・指導者向け花壇管理講習会の開催 ・イベント等での花苗などの緑化材料の配布 5. 花と緑のはがきコンクールや花壇コンクールを実施する。
------	---

実績情報

成果指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		緑と花のまちづくりの推進事業にかかる植栽面積合計	活動実績報告書による緑と花のまちづくり推進事業対象地面積の合計（累計）	㎡	目標	1,626	2,638	2,935
実績					2,930	2,956	2,973	
目標								
実績								
実績の評価・分析	<p>花いっぱいのまちづくりプロジェクトに係る事業については、平成30年度まで急増してきたが、令和元年度から活動団体数及び活動面積の伸びが横ばいになっている。新型コロナウイルスの感染拡大により、活動を休止した団体や花壇活動も制限を受けていることも一つの要因として挙げることができる。令和元年から令和2年で新規で2団体が増えた。</p> <p>花いっぱいのまちづくり推進協議会との協働は、フラワーメリーゴーランドを考案し、亀有駅前等に設置することで街の新たな修景手法として展開しており、現在区内の駅前や区施設などに51基が設置されている。また、東京2020大会において「花いっぱいでおもてなし」を合言葉に機運醸成を図り、花いっぱいのまちづくり活動を盛り上げている。</p>							



活動指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		活動団体への補助	花苗等支援団体数	件	目標	55	63	75
実績					58	59	61	
緑花生活の推進のための緑化材料配布		緑化材料配布数	個	目標	2,000	2,000	2,000	
				実績	1,286	1,742	2,130	
花と緑のはがきコンクール		応募人数	人	目標	1,500	1,500	1,500	
				実績	1,304	1,406	1,326	
目標								
実績								

今後の方向性

評価の視点	<p>重要プロジェクトの一つとして「花いっぱいのみちづくり」を全庁的に推進し、区民との協働で進めてきた。この花いっぱいのまちづくり活動の拡大及び活性化を図ることを目的として、平成26年9月に花いっぱいのまちづくり推進協議会を発足した。平成26年1月時点のボランティアによる花壇は、95団体・98花壇だったが、各課の支援制度を受けながら、令和3年1月現在では130団体・150花壇にまで広がりを見せている。</p> <p>また花いっぱいのまちづくり推進協議会が考案したフラワーメリーゴーランドは、区内外から評価を受け、世田谷区・新宿区・調布市等の区外にも設置が進み、東京2020大会期間中にオリンピックプロムナードが設定される臨海副都心のシンボルプロムナード公園にも設置される予定。さらに同時期に東京スカイツリータウンで開催予定のソサエティ5.0科学博(内閣府主催)にも出展予定となっている。</p>
「改善」に向けた所管課の見解	<p>緑と花のみちづくりの推進事業におけるボランティア団体による花壇数は、ある程度の実績を上げることができた。今後は花いっぱいのまちづくり活動を更に推進するために、その担い手を団体から個人や家庭単位まで広げていく必要があると考えている。</p> <p>そのために道路に面する公開性の高い場所を管理する「個人」や「家庭」を対象に、「(仮称)まちかどマイガーデン」を募集し、より身近に花を感じられる空間の創出を図っていきたい(実施要綱等未定・令和4年試行・令和5年実施予定)。</p>

コスト内訳(決算)(千円)

項目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	コストの主な内訳
収入	特定財源				
	国庫支出金				
	都道府県支出金	6,560	4,038	0	花の都プロジェクト事業補助金(都) ※R1で補助金終了
	その他				
一般財源(a)		61,911	71,209	62,831	

事業費	直接事業費(b)	47,931	38,907	32,161	
	報償費	417	460	280	花いっぱいレポーター謝礼、講習会講師謝礼
	消耗品費	22,065	24,505	24,362	地域緑花及びフラワーメリーゴーランド用花苗等
	印刷製本費	520	446	216	リーフレット・コンクールポスター印刷代
	食糧費	13	13	0	花壇コンクール審査員昼食代
	通信運搬	81	101	74	花壇団体連絡用通信運搬費
	手数料	1	1	0	受講料振込み手数料
	委託料	17,871	12,764	7,229	江戸川堤防植栽管理委託・フラワーメリーゴーランド設置委託等
	自動車借上料	55	176	0	花壇コンクール審査会バス借上げ等
	使用料・賃借料	250	250	0	日比谷ガーデニングショー出展料
	工事請負費	6,601	0	0	江戸川堤防シバザクラ植栽工事
備品費	0	165	0	花苗運搬用キャスター購入費	
負担金	57	26	0	講習会受講費用負担分	
人件費等	職員人件費(c)	20,540	36,340	30,030	
	人件費	20,540	36,340	30,030	
		2.60人	4.60人	3.85人	
	旧再雇用職員	0.00人	0.00人	0.00人	
	間接費(d)			640	
	調整額(e)	2,600	2,340	3,658	
	減価償却費				
	金利				
	退職給与引当	2,600	2,340	3,658	
	(控)コスト対象外				
トータルコスト(f=b+c+d+e)		71,071	77,587	66,489	

単位あたりコスト	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	コスト増減の理由 R2は新型コロナウイルスの感染拡大により、花壇コンクールや日比谷ガーデニングショーが中止になり印刷製本費・自動車借上料等の関連経費が減となっている。
	単位の定義	緑と花のみちづくりの推進事業にかかる植栽面積合計(m ²)			
	実績数値(g)	2,930	2,956	2,973	
	単位あたり区単コスト(a/g)	21,130.03円	24,089.65円	21,133.87円	
	単位あたりコスト(f/g)	24,256.31円	26,247.29円	22,364.28円	

葛飾区行政評価委員会の評価結果

(第二分科会)

「葛飾ブランド創出支援事業」

葛飾区行政評価委員会の評価結果

評価対象事務事業名	葛飾ブランド創出支援事業	所管課	産業観光部 商工振興課
-----------	---------------------	-----	------------------------

項目		提言内容
実績状況	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・区内企業を育てることは大切なことであり、事業の趣旨は評価できる。 ・「販路の拡大、産業の活性化につなげる」という本事業の目的が達成できているか把握できない。
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「葛飾町工場物語集」による事業のPRは必要だが、出展経費の助成については、他の助成事業と整理統合すべきである。 ・葛飾ブランド創出につながるような事業内容を検討し、それに対して重点的にコストを費やすべきである。
改善		<p>【葛飾ブランドの見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛飾ブランドの認知度が低く、認定件数も伸びていないことから、事業が停滞していると思われる。認定の対象を工業製品に限定せず、飲食部門や観光部門など、他の分野にも拡大するなど、事業の根本的な見直しをするべきである。（事業を改善するために、一旦休止して、再構築するべきという意見もあった。） <p>【成果の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業目的の達成度合いを把握するために、売上の伸び率や、区内外の認知度などを成果指標に設定すべきである。 <p>【アンケート・聞き取り調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の成果を把握するために、「活性化や販路の拡大につながったか」、「売上が上がったか」等の聞き取り調査を、認定企業に対して、実施してはどうか。 ・認定製品の試供品をモニターに渡して、使用した満足度などを測るためのモニタリング調査を実施してはどうか。 ・事業内容の効果を測るために、「展示会」、「葛飾町工場物語集」の評価アンケートを取ってはどうか。 ・区民の認知度を測るために、葛飾区政策・施策マーケティング調査を活用して、葛飾ブランドの認知度調査を毎年実施してはどうか。
		<p>【認知度の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛飾ブランドの区民認知度が向上するような事業を検討してはどうか。 ・葛飾ブランド認定企業が自社のホームページに掲載したり、展示会で閲覧したりできるような、動画を活用した広報戦略を取り入れても良いのではないか。 ・小・中学生は一人一台「iPad」を持っている。葛飾ブランドの動画を閲覧してから、産業フェアに行くなどの使い方もできるので、動画による周知に力を入れても良いのではないか。 <p>【葛飾ブランド認定製品の展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客が多く来る場所に、葛飾ブランドのコーナーを設置してはどうか。 ・テクノプラザに全ての認定製品を並べて展示してPRしてはどうか。 <p>【葛飾ブランドロゴマーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛飾ブランドの認知度向上のために、認定製品に、ロゴマークシールを貼付してはどうか。 ・葛飾ブランド認定企業と一目で分かるようなロゴマークシール等を作成して、工場の玄関などの目立つ箇所に、貼付してはどうか。 <p>【葛飾町工場物語集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生が読んでも面白い内容なので、区立小学校の全児童に配付してPRしてはどうか。 ・子どもが読めるように、振り仮名を振ってはどうか。 ・葛飾ブランド認定製品の販売情報や企業のホームページのURLを冊子に掲載してはどうか。 <p>【認定企業同士の交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発等の勉強会の支援を区が実施してはどうか。 ・認定企業同士の輪を広げ、共同で商品開発するきっかけを作るような支援策を検討してはどうか。 <p>【葛飾ブランドへの応募】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛飾ブランドへの応募数を増やすために、広報や区ホームページ以外に、企業が受動的に葛飾ブランドの情報を受け取れるような仕組みを作ってはどうか。 <p>【販売促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売できる製品は、テクノプラザかつしかなどで販売を行えば、より活性化するのではないか。 ・葛飾ブランドのホームページのなかに、一括して企業に問い合わせができるページを作成して、興味がある企業にメッセージを送れるような仕組みができると良いのではないか。 ・他自治体で実施しているように、国内外へ認定製品を販売できるようなオンラインサイトを作成してはどうか。 ・産業フェアで、認定証をブースに掲示するなりして、葛飾ブランド認定企業をPRしてはどうか。
今後の方向性		<p>【葛飾ブランド認定製品の展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客が多く来る場所に、葛飾ブランドのコーナーを設置してはどうか。 ・テクノプラザに全ての認定製品を並べて展示してPRしてはどうか。 <p>【葛飾ブランドロゴマーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛飾ブランドの認知度向上のために、認定製品に、ロゴマークシールを貼付してはどうか。 ・葛飾ブランド認定企業と一目で分かるようなロゴマークシール等を作成して、工場の玄関などの目立つ箇所に、貼付してはどうか。 <p>【葛飾町工場物語集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生が読んでも面白い内容なので、区立小学校の全児童に配付してPRしてはどうか。 ・子どもが読めるように、振り仮名を振ってはどうか。 ・葛飾ブランド認定製品の販売情報や企業のホームページのURLを冊子に掲載してはどうか。 <p>【認定企業同士の交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発等の勉強会の支援を区が実施してはどうか。 ・認定企業同士の輪を広げ、共同で商品開発するきっかけを作るような支援策を検討してはどうか。 <p>【葛飾ブランドへの応募】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛飾ブランドへの応募数を増やすために、広報や区ホームページ以外に、企業が受動的に葛飾ブランドの情報を受け取れるような仕組みを作ってはどうか。 <p>【販売促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売できる製品は、テクノプラザかつしかなどで販売を行えば、より活性化するのではないか。 ・葛飾ブランドのホームページのなかに、一括して企業に問い合わせができるページを作成して、興味がある企業にメッセージを送れるような仕組みができると良いのではないか。 ・他自治体で実施しているように、国内外へ認定製品を販売できるようなオンラインサイトを作成してはどうか。 ・産業フェアで、認定証をブースに掲示するなりして、葛飾ブランド認定企業をPRしてはどうか。

令和3年度 葛飾区行政評価委員会評価表

事業名	葛飾ブランド創出支援事業	担当部	産業観光部
		担当課	商工振興課

基本情報

施策番号	施策	1401	新たな技術や事業の創出を支援するとともに、区内産業の魅力を広くアピールして、産業を活性化します
事業の目的		区内で製造された優れた製品や技術を「葛飾ブランド」として認定し、区内外に発信することにより、区内製造業者の誇りとやる気を喚起するとともに町工場の魅力を伝えることで、販路の拡大など、活性化につなげることを目的とする。	

実施内容	<p>【主な実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇葛飾町工場物語集(マンガ)の発行 区内製造業者の優れた製品や技術を葛飾ブランド「葛飾町工場物語」に認定し、その製品等が産み出された背景やエピソードをストーリー性豊かに物語集(マンガ)で紹介。 ◇国際雑貨EXPOへの出展 東京ビッグサイトで開催する国際展示会に葛飾ブランドとして出展。 ◇葛飾町工場百貨市の開催 KITTE丸の内イベントスペースで販売会を実施。 ◇機械要素技術展でのマンガ配布 東京ビッグサイトで開催する区内製造業者と区が共同出展しており、葛飾区ブースにおいてマンガを配布。 ◇葛飾区産業フェアへの出展 ◇認定者交流会の実施 認定者どうしの交流を深めることで、企業間ネットワークを拡げる。
------	---

実績情報

成果指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		認定製品・技術数	累計	件	目標	94	92	93
実績					87	88	90	
目標								
実績								
実績の評価・分析	これまでの総認定数104件のうち認定製品の製造中止や廃業による認定取り消しが14件あり、令和2年度時点で90件認定している。なお、認定後3年ごとに再認定審査を行っている。							



活動指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		新規認定数	年度毎の新規認定数	件	目標	5	5	5
実績					3	3	3	
展示会出展数		年度毎の展示会出展数	回	目標	4	4	4	目標 4
				実績	4	4	4	
独自展示会開催数		年度毎の展示会開催数	回	目標	1	1	1	目標 1
				実績	1	1	1	
				目標				
				実績				

今後の方向性

評価の視点	認定企業の特典として、ストーリーマンガを作成・配布するほか、東京ビッグサイトで行われる国際展示会への出展や、KITTE丸の内での販売会を開催することでPRを行ってきている。より一層のPRを図るための、今後の取り組みについて評価をいただきたい。
「改善」に向けた所管課の見解	マンガによる認定製品・技術のPRは他にない方法であり、継続していく。 国際展示会への出展や販売会開催によりPRするほか、認定企業どうしの連携強化やコラボレーションによる相乗効果策を図っていきたい。

コスト内訳(決算)(千円)

項目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	コストの主な内訳
収入	特定財源				
	国庫支出金	0	0	0	
	都道府県支出金	0	0	0	
	その他	0	0	0	
一般財源 (a)		11,606	14,820	13,625	
事業費	直接事業費 (b)	6,866	10,080	8,945	
	報償費	138	125	138	審査会委員謝礼
	消耗品費	30	30	31	見本市、展示即売会用消耗品
	印刷製本費	900	932	994	物語集(マンガ)、チラシ、認定証
	通信運搬費	5	6	6	会議用通知発送
	手数料	27	27	27	審査員手数料(都産業技術研究センター)
	保険料	2	2	2	KITTE丸の内販売会来場者賠償保険
	委託料	4,184	5,467	5,516	業務委託、設営委託、マンガ原稿制作委託
	使用料及び賃借料	1,080	2,155	2,231	国際雑貨EXPO出展料
	補助金	500	1,336	0	認定企業見本市出展経費助成
人件費等	職員人件費 (c)	4,740	4,740	4,680	
	人件費	4,740	4,740	4,680	
		0.60人	0.60人	0.60人	
	旧再雇用職員	0.00人	0.00人	0.00人	
	間接費 (d)				
	調整額 (e)	600	540	570	
	減価償却費	0	0	0	
金利	0	0	0		
退職給与引当	600	540	570		
(控)コスト対象外	0	0	0		
トータルコスト(f=b+c+d+e)		12,206	15,360	14,195	

単位あたりコスト	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	コスト増減の理由
	単位の定義	新規認定数 (件)			
	実績数値 (g)	3	3	3	
	単位あたり区単コスト (a/g)	3,868,666.67円	4,940,000.00円	4,541,666.67円	
	単位あたりコスト (f/g)	4,068,666.67円	5,120,000.00円	4,731,666.67円	

令和元年度は、国際雑貨EXPOのブース設営を充実させたことによる委託料の増、及び認定企業が見本市に出展する際の補助件数が多かったことによる増。
令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で見本市出展補助の実績がなかったための減。